



小西准教授（右）から美作地域の鉄道について学ぶ参加者

つやま検定備え 美作の鉄道学ぶ

津山商高 市民ら研修会

津山商高（津山市山北）の商業クラブ生徒でつくる実行委が来年2月に開く「美作の国つやま検定」の研修会が18日、同高であり、出題テーマの一つ、美

学んだ。

吉備国際大の小西伸

彦准教授（産業考古学）

がJR津山線、因美線

といった地元ゆかりの

鉄道の歴史や駅舎など施設の特徴を説明。英国から輸入した開業時の橋桁が今も現役で使われていることを紹介し「駅舎を取り巻く景観も含め、貴重な鉄道遺産の宝庫だ」と強調した。

実行委は鉄道にまつわる出題のほか、津山の歴史、文化に関する設問を考える。クラブの3年下山敏弘君（17）は「身近な鉄道が歴史的に価値があるものとは知らない人も多いため、力を合わせていい問題をつくりたい」と話した。4回目となる検定は来年2月11日に開催し、今秋から参加者を募る。

この日はクラブで復活に取り組んでいる美作地域ゆかりの土人形「天神人形」の絵付け体験もあった。

（小林貴之）